

所属校種	授業実践でよかった（効果があった）事例を記入してください。
中学校・義務教育学校（後期）	総合的な学習の時間において班活動をした際に、Google Jamboardのふせん機能を用いて班員の意見を簡単に集約することができた。また、意見をまとめて発表する際に全員の意見が可視化でき、班の意見のポイントを適切にまとめることができた。
中学校・義務教育学校（後期）	美術の時間に作品の仕上がりイメージするために毎時間写真をとった。それにより1日の成果を確認できた。
中学校・義務教育学校（後期）	加賀STEAM学習として、地域の課題を解決するためにPR動画を作成した。その際、端末を活用し動画を撮影し、編集作業を行った。
中学校・義務教育学校（後期）	手元できれいな図を提示したり、わかりやすく印をつけることができ、生徒がわかりやすい。授業はじめの復習で機器を使うことや、クイズなどを表示するだけでいいため、時間を有効的に活用できる。デジタル教科書にちょっとした動画があり、授業の導入にちょうどよい。気軽にプレゼンしたり、画面で共有できるのがよい。
中学校・義務教育学校（後期）	多くの授業の導入でメンチメーターを使って意見を共有することにより、たくさんの生徒の意見を一度に集めることができるとともに、普段発言しないような生徒も参加しやすくなった。
中学校・義務教育学校（後期）	（社会科）タブレットを使用した調べ学習を行い、ワードに打ちこんでレポートを作成した。 （体育科）器械運動の授業の際に、自分の動きを撮影し、手本の動きを重ねて比較した。 （理科）実験で自分の班の結果をデータで入力することで、一瞬で結果を共有でき、考察の時間をたくさん確保することができた。
中学校・義務教育学校（後期）	1～3年生の社会科の授業でポジショニング機能（SKY MENU）を用いて、単元のはじめと単元末に生徒の考えを聞いた。単元のはじめの予想と生徒が学んだことをもとに考えたことがPC端末上に表されることにより、生徒の学びの変容や多様な意見を生徒自身が共有することができた。
中学校・義務教育学校（後期）	授業でグループ活動をする際、SKYMENU Class内でグループを作り、発表ノートを使って付箋に書いた個人の考えを、発表者の発表ノートに貼り付けられることが簡単にできた。そのことで、発表者は周りの意見を改めて書き直したり文字にする必要がなく、まとめた文章もグループの生徒が簡単に自分の手元に残せるので、時間的にも短縮できた。
中学校・義務教育学校（後期）	2年生理科の授業において、プレゼンテーションソフトを利用して天気予報を作成し、発表しあった。それにより、一人では気づかなかった「聞き手を意識した表現」について振り返り、改善することにつながった。
中学校・義務教育学校（後期）	3年の道徳の授業で、formsを使って振り返りをさせた。それによって道徳だよりをその日のうちに作成することができ、全員の意見を共有することができた。
中学校・義務教育学校（後期）	1年数学の授業で、図形の移動を組み合わせて移動を説明する場面において、SKYMENUの「発表ノート」「みんなの作品」機能で一人一人の考えを共有した。簡単に図形の移動が説明できることと、多くの意見を素早く共有でき、生徒は意欲的に学習に取り組んでいた。
中学校・義務教育学校（後期）	2年生の社会の授業でミライシードを用いて、資料の読み取りを行なったことで、ジグソー法が効果的にできるようになり、意見を深めやすくなった。
中学校・義務教育学校（後期）	Classroomを使って、課題や資料を生徒に提供することで、生徒一人ひとりが自分に合わせて閲覧することが出来た。Jamboardを使って、生徒一人ひとりの意見を集約できた。
中学校・義務教育学校（後期）	保健体育の授業でグループ学習の様子を練習の目的やメンバーの様子がわかるように撮影し、クラスルームに投稿する。毎時間の基本的な振り返りはこれまで通りに紙媒体の学習カードで行ったが、動画投稿によって、これまで以上に詳しく各グループでの協同学習が見えるようになり、評価にも活かすことができた。
中学校・義務教育学校（後期）	・1年生の数学科において、Formsのテスト機能を利用して小テストを行うことで、採点や結果分析が容易になり、各クラスの傾向に沿って授業を行うことができた。 ・英語科において、録画録音機能を利用することで、スピーキングやリスニングの能力を高める場面を増やすことができた。 ・音楽科において、作曲アプリを利用することで、今までのリズム唱よりも発展した内容に取り組むことができた。
中学校・義務教育学校（後期）	クラスの人気なものを英語で説明する授業をGIGA端末を使っておこなった。端末に表示された円グラフや棒グラフを見ながら話すことで、即興で話す状況を作ることが出来た。また、聞く側の生徒も、理解がしやすかった。
中学校・義務教育学校（後期）	道徳の振り返りで、これまでは数名しか発表させられなかったが、ノート共有ツールを用いることで、全員の振り返りを見られるようになった。
中学校・義務教育学校（後期）	3年生理科の授業（エネルギー変換効率を求める内容）で実験結果を共有された表計算ソフトに入力し、すべてのグループの結果を表にまとめることで、様々なデータをもとに考察することができた。
中学校・義務教育学校（後期）	英語の授業で自分の発表を録画して、振り返ることによってより良い姿を目指すことが出来るようになった。また、教員が評価するときの1つのデータにもなった。

所属校種	授業実践でよかった（効果があった）事例を記入してください。
中学校・義務教育学校（後期）	<p>理科の実験の様子を動画に撮って記録することができた。</p> <p>総合的な学習の時間の調べ学習では本とインターネットを活用し、より深く調べることができた。</p> <p>総合的な学習の時間のSDGs発表プレゼンでは、画面共有を使って説明させることができた。</p> <p>英語のスピーチ動画を撮って、評価に役立てた。</p> <p>数学の図形が動く問題で、タッチパネルで操作することで直感的に動きをつかむことができた。</p> <p>いくつかの教科でFormsを使って授業の振り返りを行った。それにより、毎回の授業で生徒が何を思っているのかを整理し、次時の指導に役立てることができた。評価にもつなげることができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>Microsoft Teamsを活用し、授業の振り返りをFormsで行っている。生徒の理解度やふり返しなど、即座に集計でき、評価にも繋げられる。また、結果の一部を生徒とも共有できる。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>体育の跳び箱で、自分のフォームを撮影し課題を知ることができる。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>道徳の授業でgoogleスプレッドシートを使って意見交流をしたときに、普段はなかなか自分の意見を発言できない生徒の意見も可視化されたこと。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生国語のグループディスカッションで、話し合いの様子を録画し、振り返りに活用した。各グループの様子を全体で共有でき、また、各自の振り返りにも使えて、よりよい話し合いのしかたについて考えることができた。 ・2年生総合の授業で、外部の講師の方と離れた場所から講演を行ってもらうことができた。 ・3年生社会で「まちづくり提案書」をスライドで作成し、グループ内でプレゼンを行った。お互いにコメントしあい、スライドやプレゼン内容のよいところを認め合えた。
中学校・義務教育学校（後期）	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳でオクリンクを使って自分の意見を投稿することで、教師が生徒の考えを見取りやすくなった。 ・英語の授業でディベートした際、Jamboardで意見を投稿し合った。指名されてから意見を発するのではなく、全員が一斉に発言してもよくなったので、たくさんの意見を出すことが出来た。 ・保健体育では、生徒のプレイを撮影し、自分で確認することで技能の向上につながった。
中学校・義務教育学校（後期）	<p>国語や美術では、自分の作品を簡単にクラス全員に共有することができ、コロナ禍で密を避けながら互いの作品にアドバイスをし合うことができた。理科では星の動きを見るためのアプリケーションをインストールし、理解が深まるなどすることができた。技術では自分用のパソコンでプログラミングを行ったことで、準備片付けの時間が短縮され、理解が深まった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>美術で、静物画を書く前に、カメラアプリを使って自分の書きたい場面を記録した。影の様子など細かいところを確認することができた。また、それを授業内で共有し、先生から解説してもらうことで、作品を創るためのポイントなどをクラス全体で確認できた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>2年生の「総合的な学習の時間」で、google MEETを使った職業人インタビューを行った。（株）キャリアリンクと連携し、日本各地の企業とオンライン対話をしたことで、コロナ禍で出来なかった職場体験活動に変わる活動を生徒に提供することが出来た。また、事後の生徒の反応も大変よく、実際の職業人と話すことが生徒の視野を広げることに繋がったようだった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>理科の授業で実験データを共有できるようにしておき、データを生徒が自由にに入れていくことで、たくさんデータをとる必要がある実験が例年よりも早く終わることができた。また、データ数が多いことで実験の妥当性の検証をすることができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>2年生の社会（地理）の授業で、地方ごとの特色をまとめ・発表する場面で、スライド機能を用いて班ごとの発表資料を作成した。「学んだ知識を整理するのに役立ち、印象に残りやすく改めて理解が深まった」という意見が多かった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>2年社会の歴史の授業で1時間ごとの学びをオクリンクのスライドを用いて蓄積し、単元の課題に対しての考えを単元の始めと終わりに書き込み、自分の学びの変容を実感できるようにした。互いのスライドを見合い、良いと思うものに「拍手」機能を用いて投票し、選ばれたスライドを大型モニターを使って提示しながら発表する場を設けることで、これまで気づかなかった考えに気づくことができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>2年生の体育の授業で、柔道の動きを動画でとり、グループで話し合うことで、自分やグループのメンバーの動きを客観的に見ることができたり、何度も見直すことができた。それによって、改善すべき動きが確かめやすくなった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>3年生社会の授業で、企業の役割を考える際にムーブノートの選択肢を使って全体交流することで、異なる立場の生徒の考えをもとに深めることができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>1年生の総合的な学習の時間の授業において、調べ学習を生徒の端末で行い、成果物である新聞づくりも端末を利用しWordで作成した。他との交流の場面においても、新聞のデータを全体で共有したり、生徒どうして見合ったりすることで、学びを深めることができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>Googleミートを活用したりリモート授業を行うことができた。</p> <p>共同編集機能を用いて、ドキュメントやスライドを作成できた。</p> <p>挙手して発表することが苦手な生徒は、ジャムボードや、フォームを使用することで意見を発表しやすくなった。また、自分の意見を伝えることで、自信をもてるようになった。</p>

所属校種	授業実践でよかった（効果があった）事例を記入してください。
中学校・義務教育学校（後期）	<p>3年生の理科の授業(水圧)で、実験結果から考察をまとめ、クラス内でその考察を共有する際に</p> <ol style="list-style-type: none"> ①得られたデータをスプレッドシートに入力、グラフの作成 ②班ごとに考察を発表するためのジャムボードを整理 ③整理したジャムボードを用いての共有 <p>と、多くの過程をタブレットを活用することで1時間内で課題にせまることができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<ul style="list-style-type: none"> ・理科で結果をPCで記録したことで、全体で共有することができた。 ・社会科での単元のまとめ。jamboardでまとめることにより友達と比較したり、参考にしたりしながら活動ができた。発表もそれを提示しながら分かりやすく発表することができた。 ・指導用ソフトを使っでの個別学習ができた。 ・オンラインで英会話、グーグルマップを用いた道案内。会話やスピーチの動画を教師用PCに送ってもらうと内容面や技術面もしっかり評価できた。 ・スライドに自分の短歌や俳句をのせてコメントで助言し合った後に発表することで、考えの再構築ができた。 ・マット運動や剣道の授業では、自分の動きを動画で確認することができ、動きの修正につながった。
中学校・義務教育学校（後期）	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の社会の授業で、古代の日本を説明する場面の中で、ジャムボードを用いて、お互いの意見を整理し、クラス全体の意見を可視化することができた。それにより、多様な意見に効率よく触れることができ、多角的なまとめを考えることにつながった。 ・各学年の道徳の授業で、導入の場面などでメンチメーターを用いて、簡単に自分の意見を述べたり、考えに近いものを選択することで、グループワークを活性化したり、その後の考えの変容を可視化することにつながった。
中学校・義務教育学校（後期）	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の数学の授業で、図形の移動を考える場面の中で、スライドを用いて万華鏡を作成した。作成する過程のなかで、生徒は「この位置にくる図形は、そのこの図形を平行移動させた方が楽だな」のようにどの図形をどう移動させるとよいか、話し合いながらよい方法で模様をつくることにつながった。□ ・1年生の数学の授業で、立体を分類する場面の中で、スライドを用いて7つの立体を「YES」と「NO」分類し、どのような着眼点で分類したのか共有機能を用いてクラス全員でクイズ形式で共有した。それにより、同じ分類でも着眼点が異なることを通して、「立体に対する見方」のバリエーション豊かにすることにつながった。
中学校・義務教育学校（後期）	<p>体育の実技の際に生徒の動画を一人ひとり撮影し、アップロードして教師が毎回コメントをつけてフィードバックを行った。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>社会科の授業で、多面的・多角的に考察する場面の中で、Jamboardに思考ツールを貼り付け、付箋を貼っていくことで、付箋をただ貼るだけではわからなかった新たな事実を見つけ出すことができた。結果的に多面的・多角的に考察する授業につながり、深い学びとなった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>コロナ禍で実験ができないので、2年生の理科の授業で、実験のようすを動画や写真で撮影し、スライドを作成した。1人ひとりが端末で実験結果の写真を見て、記録をすることができた。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の創作の授業で、生徒が提出したものに教師からすぐにフィードバックを行うことで、自分のペースでじっくり考えながら作品を良くしていくことができた。 ・数学の図形の授業でデジタル教科書のコンテンツを利用して、一人ひとりが端末を操作することで考えを深めることができた。 ・各自の考えをスクリーンに映し出すことで、考えの共有がすぐできるようになった。 ・授業のふりかえりに対して教師がコメントをすることにより、次時の課題へ取り組む意欲につながったり、各自の学びの自覚化を促すことができた。 ・体育科の授業で、動画の撮影が個人の端末に残ることで、学習の足跡を振り返ることができ、技能の上達が促されるようになった。 ・理科の実験結果を表計算ソフトに入力し、共有したり、グラフ化したりできるようになり、思考が深まりやすくなった。
中学校・義務教育学校（後期）	<p>ジャムボードを使い自分の意見を付箋に書いて貼ることで、全員が自分の意見を表明し、話し合いに意欲的に取り組むことが出来るようになった。体育や音楽などの実技や理科の実験などでは、その様子を撮影し生徒と共有することで、生徒自身が課題を明確にすることができるようになったり、視点を焦点化することで話し合いが深まるようになった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>クロムブックをノートとして活用し、見返したときに見やすいものとなった。 理科の実験で、動画や写真を使って演示を行い、理解しやすいものとなった。</p>
中学校・義務教育学校（後期）	<p>社会科や道徳の授業や単元の導入に、「○○についてたくさん挙げてみよう。」といった学習活動をする際に、メンチメーターやAIテキストマイニングを使うことで、板書の時間が短縮され、児童生徒が視覚的に情報をとらえることができるようになった。</p>